

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101151		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム太陽の里		
所在地	島根県松江市佐草町72-1		
自己評価作成日	平成22年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成23年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do">http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成22年 12月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護福祉士・看護師・歯科衛生士と多岐に渡る専門職がおり専門的な関わりが持てる。また、管理栄養士によるバランスの取れた献立での食事提供が行える。法人に様々な事業所があり連携を図ることで様々な面での安心に繋がっている。誕生日にはその方の「想いを叶える」を念頭に、自宅外出・外食等を実施している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人として地域福祉の核となるべく、地域と共に歩んでいる事業所である。利用者の視点にたった支援に努め、大きな法人でありながら、現場職員が前向きなアイデアや発案を積極的に実践出来る環境にある。職員同士の信頼関係も構築されており、確かなチームワークが感じられた。「なんでも話せる関係づくり」を大切にして、利用者や家族の話に常に耳を傾ける職員の姿勢は、利用者家族からも厚い信頼を得ている。利用者の高齢化、重度化による日常生活や外出等行動の制限は否めないものの、その日その時の利用者の気持ちに寄り添い、柔軟に対応されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 新任職員や退職については、おたよりで 3. たまにある	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念である「ふれあいと健康をもとめて」を基本姿勢とし『私たちは人々のしあわせをお手伝いします』を運営理念に作り上げている。管理者及び職員は理念に基づき実践に取り組んでいる。	「付き添い 寄り添い 見守るケア」をモットーに、地域の中で安心して笑顔で住める居場所となるように、利用者、家族、地域の方、職員の笑顔(しあわせ)を大切に取組んでいる。又、玄関・事務所への掲示やパンフレットにも掲載し、周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 平成22年 11月 1日	近隣地域の早朝清掃活動などに参加し地域との交流を図っている。	隔月で発行されている広報誌「太陽の里だより」は、公民館や運営推進会議メンバーにも配布され、地域の方にも気軽に立ち寄り寄るように声がけをしている。地区の文化祭や夏祭りに参加したり、事業所での花火大会には、近隣の子供連れのご家族を招くなど、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいき介護予防教室等を開催し、認知症の理解や接し方について地域の人に知って頂く機会を持ち相談援助している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、毎回職員自らがテーマを設定し、外出行事や消防訓練等の報告などタイムリーな話題を提供し話し合いを持っている。また、手作りのお菓子をお出しし入居者様も参加する機会をもっている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的に開催されている。利用者家族、交番や公民館長など地域の方の参加もあり、生活に即した身近な意見が活発に話し合われている。利用者と一緒にお菓子作りをしたり、ゲストを呼んで消防のDVDの上映、虐待防止の話を聴くなど工夫した内容となっている。夏祭りと同様開催も行い交流を深めた。	
5	(4)	○市町村との連携 平成22年 12月 25日	ブロック会議等にも参加したり、運営推進会議に参加して頂いたり市の担当者とも意見交換等ができる関係作りをして、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者や包括支援センターとは、運営推進会議以外にも困難ケースの相談や報告など連絡をとり、アドバイスを頂いている。市のブロック会議やグループホーム部会に参加し、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修や勉強会を通して、正しく理解できるよう取り組んでいる。	職員は、法人全体をはじめ事業所内でも学ぶ機会を持ち、施錠する事の弊害を十分に理解している。日中は居室や玄関に鍵を掛せず、利用者の自由な行動を見守っている。重度な方が多く、危険防止の為にセンサーマットを使用する場合も家族の同意を頂き、経過が記録されていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理職、職員共に高齢者虐待防止関連法について施設内研修を実施している。また、地域包括支援センターの職員に研修を実施して頂き内容を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理職、職員共に研修会に参加し、積極的に学習する機会を作っている。また、職場内でも伝達講習や勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事業所の方針等話し、入居に当たっての不安が生じないようにしている。契約時には重要事項説明書を基に分かり易く説明して理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者様の言動に注意を払い意見等に対応するように心がけている。また、家族から本人の意見等を聞く機会も設けている。	年4回の家族用「太陽の里だより」とは別に、毎月、個別の様子分かるように、利用者担当の職員が書いたおたよりを家族に送付している。運営推進会議には広く参加を呼びかけ、参加されなかった家族へも記録を送って内容を報告している。退去後も、ボランティアや運営推進会議に参加して下さるご家族もある。年1回の家族会では、家族が手作り料理を持ち寄って団欒し、和やかな交流の場となっている。	新任職員や退職については、おたよりで家族へも報告されている。GHの特性を理解し、職員の異動は、顔馴染みの併設のデイサービスからの異動となるような法人としての配慮が窺えます。今後も部署異動は最小限に配慮をお願いしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会議を開催している。連絡ノートや入居者個人別対応策表を活用し、意見や提案を書くようにしている。プリセプター制度に関しては法人全体で取り組んでいる。	日常から、職員が意見や提案を言い易い関係を築いている。又、全職員が半年ごとに、自己評価や面談を行っている。法人としての教育・研修システムが整えられており、近隣の事業所との交換研修も行っている。職員の能力向上と情報の共有化に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者による個人面談を持ち、個々の職員から悩み、意見等を聞き取り向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で年間研修計画を立て実施している。また、グループホーム内でも毎月勉強会を開催している。外部研修では研修報告書を提出し伝達講習もするようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会にも参加して同業者との交流も図っている。また、他施設との交換研修を通して交流を持ち、より良いサービス提供ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず職員が事前面談を実施し安心される関係作りから始めている。その時々本人の状況を判断し本人の思い、苦しみ、楽しみ等一つでも聴く様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始に至るまでホームに来て頂き、ホームの雰囲気や様子を見ていただき、話を聞く機会を持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、本人の思いや家族の要望から、ホーム以外の選択肢も提案させて頂いている。(ケアハウス、特養等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に応じた行事や日常的に季節を感じることに出来るおやつ作り等、入居者様の要望も聞きながら実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの行事には一緒に出掛けたり出来るよう参加を促している。グループホームでの生活の様子を毎月手紙にして報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方、友人の方など面会に来られる頻度が高い。また面会に来やすい環境になるよう努めている	馴染みの場所や店へ出掛けている。手紙や電話などでも馴染みの関係が継続するように支援している。又、事業所の催しや地域の行事に参加する事で顔馴染みの方と出会えたり、誰にでも気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気を職員は心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人に担当職員をつけ、その職員を中心に思い聴き寄り添える関わりを行えるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、運営推進会議等に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝食の時間を決めずに、その人に生活習慣に合わせた対応をしている。意思疎通な困難な方には、御家族に好きなこと等を聞き、笑顔、発語を促すよう取り組んでいる。	日々のケアを通しての気付き、家族からの意見と要望は、職員連絡ノートや業務日誌に記載されており、全職員でケアの方向性を共有している。家族とのアンケートとは別に、利用者への聞き取りによるアンケートを行い、出掛けたい場所など利用者の意向を大切にしている。	高齢化に向けて、生活の広がり、役割、楽しみがこれからの課題として受け止められています。今後の対策を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使っておられた道具(箸・茶碗・湯のみ等)やタンスなども持ってきて頂く様にしている。また仏具を持参している方もおられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定や排泄、食事量のチェックを行い、一人一人の健康状態の把握に努めている。その方の出来る事を見つけ、実際に出来るよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今年度は、担当職員が担当の方のケア目標を立てて、具体的なケアの取り組みを実践している。それを基に担当職員と共にケアプランを作成している。	定期的なケアカンファレンスを行い、各利用者の担当職員が立てたケア目標に沿ってモニタリングを行い、全職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。本人や家族の意向、職員の気づきや最新情報を集め、現状に合ったプランに見直している。状態の変化や家族からの要望があれば、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを作成、カルテの特記事項には日頃の会話から身体状態まで記入し、出勤時には全職員が目を通して見ている。また、個人別改善策・対応策を作成し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携もあり、入居者が重度化した場合や、看取りまで対応できる支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からの生活習慣を家族に聞く等し、馴染みの事が継続できるよう支援している。買い物好きな方は買い物に行く等。また地域では防災協定があり、民生委員・消防と協定体制があり安心して過ごせる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(近隣・馴染み)が往診に来ている方が6名、家族と共に総合病院受診をしている方が3名おり、それぞれ「受診ノート」を活用し主治医と連携を図っている。	かかりつけ医については、利用開始時に話し合い、本人や家族の希望を尊重し、継続して受診出来るようにしている。往診の方が殆どだが、受診の際には、「受診ノート」で主治医との連携を図っている。緊急な場合には、受診時の送迎を職員が行う事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに1名の看護師が配置されており、すぐに相談・対応できる体制であると共に、夜間でも対応が出来るよう緊急マニュアルも整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院する場合、情報提供を行うと共に、入院中には様子を見にいたり、入院先の医師・看護師に併せ御家族とも密に連絡をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を立て、勉強会を実施している。御家族の方にも説明をし同意を得るようにしている。入居者様の状態変化に応じて主治医と連携を図り、関係者にてカンファレンスを実施している。	重度化した利用者については、主治医と相談しながら、家族の意向を確認している。利用者、家族が自宅介護を望み、家族の協力があるのなら、事業所としてはそれを支えていきたいと考えている。これまで1ケースの看取りがあったが、経験のない職員が多く、研修を重ねている。	病状の進行具合や予想されるリスクなど、先を見据えた方針を家族や職員間で話し合う機会を持ち、不安の軽減に努めて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習Ⅰを受講して知識を得ている。AEDも法人に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を通して防災訓練を実施している。近隣の事業所の職員にも参加して頂いた。民生委員や公民館への便利にも予定を周知している。また、地区の防災協定もあり、定期的に防災訓練を実施している。	消防署や近隣の事業所の職員にも参加して頂いた。地区の防災協定により、定期的に防災訓練を実施している。法人としては、災害時避難先としての指定も受けている。災害時のみならず緊急時には、法人他施設からの応援体制も整っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や排泄の失敗時など、自尊心を傷つけぬ様さりげない声掛けをし安心して頂けるよう配慮している。	個人情報の利用目的や取り扱いは家族に説明し、書面で同意を得ている。利用者の尊厳を大切にされた言葉遣いや態度について研修を行い、利用者一人ひとりにあった言葉かけや対応がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行きたいところ、したい事など希望を聞き、出来る範囲で叶えるよう支援している。アンケートも実施し、担当と1対1の会話にて本人の気持ちを引き出している。自己決定の場面を持ってよう配慮している。日常的な仕事も本人の意思で動かれるまで待つ支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が可能な限り自分のペースで生活されるよう、見守り・支援している。日常の中でやりたい事、好きなことが一つでも出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回外部業者にて散髪をし、本人の意向にて髪の整髪・毛染めなどが出来るよう支援している。また、御家族の方が散髪される方もおられる。毎日眉描きをするなど化粧される方もおられる。また、ボランティアによるメイクやハンドマッサージも実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の嗜好を把握している。一人一人の力に合わせ、盛り付け、食器拭き等を職員と一緒に関わられるようにしている。	利用者の重度化が著しく、業務負担の軽減の為、併設施設で作られた料理を利用するようになった。盛り付けや片づけは利用者と一緒にやっている。彩りよく調理された高齢者向けのメニューであり、又、利用者の状態に合わせて食べ易く配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量を把握している。食事量が少ない時は食事形態を工夫(お粥、トロミ、ミキサー等)、本人の好きな物を食べて頂いている。また、管理栄養士と相談しながら、栄養補助食品なども活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士を中心に毎食後に口腔ケアを実施している。吸引機を使用した歯ブラシを考案したり、市販のクルリーナブラシも活用し、個々に合った支援をしている。口腔内の変化も歯科衛生士に相談し速やかに対応している。併せて口腔ケアの実施状況を記録しカルテに記載している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストを使用し、排泄時間のリズムを把握し、トイレ誘導やおムツ交換を行っている。また、本人の変化を見逃さぬ様にし都度の対応も行っている。自然排尿・排便を促している。	職員が排泄パターンを把握していく事で、タイミングよくトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。乳製品や適度な体操など便秘対策にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を活用したり、水分補給を密にしている。オムツ使用の方も便座に座り、腹部マッサージを実施し便秘改善を図っている。排泄チェックリストで排便状況も把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「入りたい」という思いには出来る限り対応しているが、入浴時間帯は限られている。但し、毎日入浴できるよう支援している。	利用者の体調や気分をみながら、出来るだけ利用者の希望に沿って入浴してもらっている。基本、午後からの入浴が多いが、午前の入浴もある。利用者の生活習慣に合わせて、夕方に入浴される方もある。	事業所には一般浴槽しか無い為、重度化に向け、またぎが困難な方への入浴支援の方法を検討していく必要があるでしょう。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温等も一定に保たれる様細かに調整し安眠できるよう支援している。また、車イスの方が長時間車椅子に座ることがないよう、定期的にベッドにて安楽な姿勢が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のお薬情報を一覧できるようファイルしている。薬の変更があった際には、申し送りノート・カルテにも記載し、職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑を耕したり、花を植えたりしている。将棋、パズル等本人の趣味を活かした楽しみも出来る様支援している。茶道をしておられた方には、先頭に立ってお茶会なども開催している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等に行ける時は一緒に散歩をしている。本人が望むことを日常会話の中から見つけ、近所の花屋等に出かけたり、本人の希望でスーパーやパン屋にも買い物に行っている。	誕生日には「想いを叶える」を念頭に、職員二人と家族により、個別の自宅外出や外食、ドライブ等、出来る限り利用者の意向に沿って出掛け、共に楽しい時間を過ごしている。日常の散歩や近所のスーパー、花屋、パン屋などにも買い物に出掛けている。	ユニフォームは、支援する側される側を意識しやすく、お互いが協働しながら生活していくホームにはそぐわないのではないのでしょうか。特に外出時は、周りの方からも「施設」のようなイメージを持たれやすい為、配慮をお願いしたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームで行った夏祭りなどで、商品の金額を設定し、本人に支払って頂く等お金を管理する力を発揮する場面を作っている。また、個人でお金を管理しており、買い物に行った際自ら支払いできる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方と相談の上、携帯電話を持参して頂き、自らかけられるようにしている。はがきなどに手紙を書かれた際は出すことが出来る様支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に季節の花などを飾り季節を感じて頂ける様にしている。行事の写真なども廊下に飾って楽しんで頂いている。また、季節の歌も相談して決め一緒に歌う時間を設けている。	大きな窓からは暖かな日差しが差し込み、事業所の各所には安全への配慮が窺えた。危険物の管理も毎日チェックされている。利用者の誕生日外出の写真が個別に掲示されており、普段と違った利用者の表情を垣間見る事が出来た。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとしたソファを置き、足を挙げしたり談話をする場所がある。また畳スペースもあり、冬場にはコタツを出し昼寝をされたり出来るスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを置き、本人にとって居心地の良い空間になるよう工夫している。仏壇や家族の写真を飾り安心感のある居室にしている。	利用開始には、使い慣れた家具や持ち物となるべく持ち込んで頂くように説明されており、位牌や仏壇やタンス、食器などを持参されている方もある。手作りセンサーやベッド柵に手作りカバーをかぶせて怪我を防ぐなど、職員の優しさや前向きさが窺える。	重度化により、一緒に掃除を出来る方が少ない為、毎日の居室掃除は、職員中心に行われていますが、細かい部分の掃除や片づけは担当職員が確認するようにしましょう。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「便所」「トイレ」などの紙を貼り、場所の把握が出来る様にしている。廊下などには手すりがついており立ち上がりや移動時に使用できる。		